
第 71 回数理社会学会大会（JAMS71）大会案内

日時：2021 年 9 月 4 日（土）～9 月 5 日（日）

会場：オンライン（Zoom）

大会委員長：鈴木伸生（岩手県立大学）

● 第 71 回大会開催校より

開催にあたって

鈴木伸生（岩手県立大学）

このたび、数理社会学会第 71 回大会を岩手県立大学（オンライン）にて開催させていただきました。本学での開催は、2002 年 9 月の第 34 回大会（阿部晃士大会委員長）以来であり、19 年ぶり 2 回目の開催となります。当初の予定でしたら、比較的涼しい夏の岩手に皆様をお迎えし、自由で刺激的な研究交流に加えて、麺類や海鮮料理、地酒などもご堪能いただくことを心待ちにしておりました。しかしながら、いまだ新型コロナウイルスの感染状況に改善の兆しが見られないばかりに、現地での大会開催が叶わなかったことに対して、たいへん残念でなりません。

ただ、オンライン開催にはなりましたけれども、本学での現地開催の雰囲気を味わっていただけるイベントがございます。今回の大会では、開催校の特別企画として、東日本大震災後から 10 年間にわたり、岩手県大船渡市の住民を中心に実施してきた縦断調査・横断調査に関する豊富なデータに基づき、震災復興を考えるためのシンポジウムを開催いたします。この調査プロジェクトは、第 34 回大会の大会委員長であった阿部晃士先生を中心に始動したものであり、本シンポジウム企画には、プロジェクトメンバーである本学教員（非会員）が登壇いたします。このように、現地開催での雰囲気を満喫していただくためにも、被災地ならではの企画に是非ともご参加いただけすると幸いです。

オンライン空間ではございますが、皆様を岩手にお迎えすることを心よりお待ちしております。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

● 第 71 回数理社会学会のご案内

第 71 回数理社会学会大会は下記の要領で開催されます（プログラムをウェップ上で公開中です）。今大会では特別企画として、ワンステップアップ・セミナー「ベイズで広がる数理社会学の世界（講師：浜田宏先生）」、大会校企画シンポジウム「継続的地域調査からみる震災被災地 10 年のあゆみ：岩手県大船渡市を対象として」が開催されます。活発で刺激的な研究交流の場となるよう、みなさまのご参加をお待ちしています。

（研究理事：瀧川裕貴）

1 期日：2021年9月4日（土）～9月5日（日）

2 会場：オンライン（Zoom）

3 参加費：

一般（会員）無料 学生・院生（会員）無料

一般（非会員）5,000円 学生・院生（非会員）2,000円

4 懇親会：オンライン上での懇親会を念頭に置いているため、会費はかかりません。

5 参加登録

- 以下の URL に参加登録をお願いします。
- 非会員の方は事前登録の上参加費を納めることで学会大会に参加していただけます。非会員（非登壇者）の参加登録の締め切りは 2021年8月21日（土） です。参加登録をされた方に振り込み案内メールをお送りしますので、振り込みをお願いします。振り込みの締め切りは 2021年8月28日（土） です。

【非会員の非登壇者用】参加登録申し込みフォーム：<https://forms.gle/zAFE2CbwCuvcvCKo6>

- 会員の方も参加人数の事前把握のために、参加予定の方は事前登録をお願いします。参加登録の締め切りは 2021年8月28日（土） です。

【会員用】参加登録申し込みフォーム：<https://forms.gle/B1cQkGrRJ2fqLx3RA>

6 参加方法

- 参加登録済みの方々に対して、事前に Zoom の招待メールを登録メールアドレスにお送りします。
- 会員向けには、会員メーリングリストでも Zoom の招待情報をお送りします。
- 参加方法の詳細と当日の注意点についても招待メールと同時にお送りします。

7 問い合わせ先

研究事務局 〒980-0845 宮城県仙台市 青葉区川内 27-1

東北大学大学院文学研究科 瀧川 裕貴

E-mail: jams.research[at]gmail.com

大会開催校 〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52

岩手県立大学 総合政策学部 鈴木 伸生

E-mail: jams.meeting71[at]gmail.com (一般的な問い合わせ)

● 第 71 回数理社会学会大会時のワンステップアップ・セミナーのご案内

第 71 回オンライン大会前日に第 21 回ワンステップアップ・セミナーを、下記の要領で開催します。浜田宏先生を講師とし、「ベイズで広がる数理社会学の世界」についてご講義いただきます。ベイズ統計モデルを社会学で応用する場合の基本的な考え方と、具体的な実践方法を解説いただく予定です。この機会にふるってご参加ください。

1. 題目：ベイズで広がる数理社会学の世界

2. 講師： 浜田宏（東北大学）

3. 日時：2021 年 9 月 3 日（金） 15 時～17 時

4. 場所：オンライン（Zoom 開催）

5. 内容：

ベイズ統計モデルは Stan, JAGS, PyMC3 等のプログラム言語と、分析をサポートする統計パッケージの発展により、近年急速に普及している統計手法の一つです。最尤推定値を得ることが難しい統計モデルでも、MCMC を経由してパラメータの事後分布や予測分布を近似計算できる場合があるため、理論モデルに忠実な統計モデルをつくることができます。この特徴により、数理社会学分野で提案された狭義の数理モデルの一部を、実証研究の文脈で検討することができます。このセミナーでは、ベイズ統計モデルを社会学で応用する場合の基本的な考え方と、具体的な実践方法を解説します。

6. 目標：

確率変数同士を合成する方法を理解する

ベイズ統計モデルの基本的な枠組みを理解する

理論モデルを統計モデルで表現する例を学ぶ

7. 扱うトピック：

複合分布と合成積、最尤法とベイズ予測分布、周辺尤度と自由エネルギー、Stan による統計モデルの表現。

8. テキスト：スライドを配布

参考資料：

浜田・石田・清水、2019『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店。

浜田、2020『その問題、やっぱり数理モデルが解決します』ベレ出版。

9. 参加費：無料

10. 定員：なし（Zoom の定員は 500 名まで）

11. 参加資格：

会員・非会員を問わず、どなたでも参加できます。

● 第71回大会校企画シンポジウム「継続的地域調査からみる震災被災地10年のあゆみ：岩手県大船渡市を対象として」のご案内

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手県、宮城県、福島県の沿岸部に住んでいた人たちの生活を一変させるものでした。一瞬にして、家族や友人などの親しい人たちを失う人たちがいました。住み慣れた住居が流されてしまった人もいれば、長年住み続けた故郷を失う人もいました。一時的ではあれ、避難所で生活する人もいました。そして、震災からの復興を目指す様々な動きもまた住民たちの生活を変化させていきます。仮設住宅での生活を経て、震災以前に住んでいた場所とは異なるところで新たな住居を構える人もいれば、行政から十分な援助を得ることができなかったために以前から住んでいる住居を自力で再建した人もいます。震災にともなう住民の移動によって自治会を解散せざるを得なかったところもあれば、移転してきた住民と新たな社会関係を構築することになったところもあります。

本シンポジウムでは、岩手県大船渡市で継続的に実施している社会調査をもとに、震災発生から10年にわたる住民の生活のありかたの変化を検討します。岩手県立大学総合政策学部は東日本大震災直後の2011年12月から継続的に大船渡市を対象に地域調査を実施してきました。5時点（2011年、2013年、2015年、2018年、2020年）にわたるパネル調査、3回（2011年、2013年、2017年）にわたって行われた2000人規模の横断調査といった量的調査に加えて、住民の生活の変化を詳細に検討するための質的調査も継続的に実施しています。本シンポジウムでは豊富な地域調査データを活用することで、（1）自然災害とそれとともに復興政策の導入といったマクロ的な社会変化に対し、人々が生活という側面でどのように対応していったのか、（2）復興政策の進展と人々の生活格差はどのような関係にあるのか、（3）復興政策が進む中で、人々は復興政策をどのように評価していたのか、といった論点を検討していく予定です。

・オーガナイザー・司会

金澤悠介（立命館大学）

・登壇者とテーマ

1. 阿部晃士（山形大学）

「岩手県大船渡市における復興に関する調査プロジェクトの10年（仮）」

2. 堀篠義裕（岩手県立大学）

「津波被災地の住民意識調査における復興政策の評価とその変遷（仮）」

3. 金澤悠介（立命館大学）

「パネル調査から見る住民の生活と社会関係の変化（仮）」

4. 平井勇介（岩手県立大学）

「質的調査から見えてきた復興過程における課題と住民対応（仮）」

付記：このシンポジウムは、JSPS 科研費 19K02043 の助成を受けています。